

すいそうすいそうすいそう



一時間の中で

讃岐勘次

「では、まとめるに○○のかど、と
いうことになるね。他にないだろか。」
(身のまわりから、垂直な直線をさが
す)という学習で、図画板のかど、
定規のかど、教科書やノートのかど等
いろいろな考へがでそうになつたところ
である。子供たちは、出ばなをく
じかれたように「瞬静まりかえつた。
あつ、あつた!」一人が突然大声を
あげた。「机に鉛筆を立てるこども垂
直だと思います。」なるほど、子供ら
しい発想だなあ、と感心していると旗
ざおを立てる、柱をたてる、棒をたて
るがでてきた。○○をたてる、とまと
める「もつとあるのになあー。子供の
つぶやきがあちこちから聞かれる。」先
生のフエガ、さがつてゐる糸と、その

木のところ。横木のことを何といふか
表現につまつてある。横木と糸との関
係を補足する。○○をさげる。しばらく
沈黙が続く。「もうないかな。まい
つたようだね。では、先生のとつてお
きのものと言おうか。」まだまだ、も
う少し考へさせて、子供たちの目の
色がかわってきた。どの子も身をのり
ださんばかりである。よし、きょう
は満足のいくまで出させてみよう—
と心にきめた。「先生、たんすをひく
ということも垂直に関係があるのでは
ないですか。珠算一級の女子、すべ
り舟ができる。「材木を切ったとき」これ
もあまり発表のみられない子、「おかし
い」「わからないなあ」あちこちから声
が出てきた。発表した子は、真剣にわ
かしの顔をみて、助け舟が心要だな。
黒板に図解をして説明してやる。わか
らない、といった子もようやく納得し
たらしくうなづいている。このあとも、
ねばす、もぐる、たらす等、子供らし
いざん新たな考へがつぎつぎとでてきて
授業が続けられていった。

わたしの学校では、教育目標の具現化(創造性があり、協力的で実践的な子供を育てる)に主眼をおき、毎日の活動を続けていた。わたしが今やらなければならぬことは、一時間の授業をいかに実践的にやるか、ということ



先生! できたよ

け舟ができる。「材木を切ったとき」これ

もあり発表のみられない子、「おかしい」「わからないなあ」あちこちから声

である。

わたしは算数が好きである。算数の授業をするときに第一に考へている事は、よい問題を提示することである。広がりと深まりのある問題を考えていくことはなまやさしいことではないが、わたしのいたらない力量を増し、子供に多面的に考へさせるためには、どうしてもらななければならない。第二に子供どうしのやりとりを大事にしていくことである。経験をもとに話をすると、思いつきやひらめきをもとに話をする子、どの子も発表という点に焦点をあてれば、すばらしい輝きである。お互いの話に耳を傾け、認め合い、励まし合つてこそ、授業での望ましい人間関係が培われる。第三は、まとめる段階である。初めの問題でいろいろな考へが出れば、次の話し合いが活発になり、終わりに多方面からのまとめが可能になる。このように考へると、やはり要点は問題の提示にある、と考えている。一時間をすごしてみて、わたしの心中に変革の事実がなければ、子供をより次元の高いものに引つぱつっていくことはできない、と思う。だからこそ一時間一時間の授業実践を大事にしていきたいと考へている。子供の創造性は、わたしの創造性から、と思うとき、一時間ごとの対決に身がひきしまる思がしてならない。